会　議　録

会議名	第４回　宇都宮駅東口地区整備推進懇談会	
開催日時	平成 23 年 1 月 31 日（月）　午後３時　～　午後５時	
開催場所	宇都宮市上下水道局　5 階大会議室	
出席者	委員	石井清，古池弘隆，柿沼賢，須賀英之，森本眞司，安藤正知，中津正修，大森郁雄，國谷渡，今井源一，南木成夫，荻美紀，酒井誠（13 名）
	事務局	総合政策部長，総合政策部次長，地域政策室長，駅東口整備室長，ほか６名
公開・非公開	公開	
傍聴者	０名（報道関係者４名，関係者１名）	
次　第	１　開　会 ２　会長挨拶 ３　懇談会における検討フローについて ４　前回の懇談会における意見と対応について ５　議　題 （１）宇都宮駅東口に導入する公共機能について ①会議中心型コンベンション施設の整備・運営の方向性について ②新たに検討する公共機能について ５　その他 ６　閉　会	
会議の結果	１　本日いただいた意見を踏まえた検討を進め，次回は平成 23 年 5 月～7 月頃開催する。 ２　23 年度内を目標に駅東口地区整備の方向性として提言書をまとめていく。	

発　言　要　旨

議事（１）宇都宮駅東口地区に導入する会議中心型コンベンション施設の整備・運営の方向性について	
森本委員	県内で医学系学会の利用があまりされていない理由の一つとして「交通利便性が高く，多くの会議室をもつ，学会利用に適したコンベンション施設がないことが挙げられる」という記述があるが，これは関係者へのヒアリング等を実際に行っているのか。
事務局	学会の主催者及びコンベンション運営の専門企業へのヒアリングを行った中で，県内・市内含めて交通利便性が高く，多くの会議室をもつ学会利用に適したコンベンション施設がないという指摘を受けている。
森本委員	交通利便性という点からは東京や大宮などの都心が選択されてしまうのではないだろうか。宇都宮の駅前にコンベンション施設ができたら本当に使ってもらえる可能性や確信があるのだろうか。
事務局	学会主催者は大学が立地する地元での学会開催を希望することが多い。また，開催にあたっての留意事項として①駅と会場，②会場間における参加者の移動負担の極小化が挙げられており，駅からできるだけ近距離であることや会場間の移動を 5 分以内とすることが求められている。しかし，県内・市内にはそれらに対応できる施設がない

	ため，本県の医療系大学が主催する学会の多くがそういった施設がある大宮や東京などの県外に流出しているという現状がある。
大森委員	医学系の学会に絞って需要調査を実施しているが，年間数十件程度の医学系学会の利用だけでは運営コストをペイすることは厳しいと思われる。コンベンションホールを運営していくにあたって，年間の稼働率をどの程度まで考えているのか。稼働率などを踏まえた事業性の判断が必要になると思うが。
事務局	岡山のコンベンションセンターは駅直近であること，医学系大学が立地しており，宇都宮市がターゲットとしている医学系学会をコンベンションのターゲットとしていること，また，施設内容についても宇都宮市が目指す平土間式の大・中ホールを所有していることなどから，宇都宮市のコンベンション施設の使われ方の参考データになると考えている。その岡山コンベンションセンターでは，医学系学会での利用だけを見ると年間３０～４０件程度だが，平土間式の大・中ホールや会議室を十分に備えていることで，企業のミーティング利用や学会以外の学術会議や総会，あるいは小規模の展示も含めたイベントを絡ませることで，年間 1,500 件程度の利用があり，稼働率は例年コンスタントに 7 割程度となっている。また，指定管理料は 0 円となっており，施設の利用料金収入だけで十分にランニングコストが賄えている事例である。宇都宮市は県内に医学系の大学を３つ抱えているという利点があるとともに，需要調査の補強として行った中小企業によるコンベンション利用についても一定見込めることが分かったことから，運営面においては，岡山コンベンションセンターを一つの目標とするとともに，市外からの交流人口の増加や市民の方への色々な面での利用が可能になると考えている。
大森委員	施設の稼働率は 7 割程度を目指していくということだと思うが，稼働率 7 割を目指すためには，施設運営の課題としても挙げられている人材育成が重要なポイントになると思う。例えば，文化会館などの既存施設を活用してコンベンション誘致のノウハウを蓄え，ノウハウ蓄積後に新たなコンベンション施設を整備して，運営・誘致活動などをしていくようなやり方もあるのではないかと思う。
事務局	整備にあたっては，ＰＦＩ手法や岡山でも導入している指定管理者制度の導入によって，コンベンションの運営専門企業を絡めるなど，民間活力手法をどう活用していくかということも一つの大きなテーマになることから，そういったものを今後詰めていければと考えている。
酒井委員	コンベンションの利用可能性がこれだけあるということは理解できたが，なぜこれまでそういった施設を整備してこなかったのかというところが疑問に思う。これまでのホール整備はとにかく文化会館などの大きなホールを造りたがって，それに付随して小ホールや会議室を造るぐらいだったと思う。しかし，大ホールは運営面が非常に難しくなっており，税金の無駄使いなどになりやすい状況である。また，こういったコンベンションと呼ばれるような会議主体のイベントは栃木県でも県の総合文化センターなどで行われているが，数年前に建築士会の全国大会を市の文化会館で開催した際は，基調講演で大ホールを利用することはできたが，その後の分科会では施設が使いにくいという問題があった。これまでの説明や過去の経験などから，ホールの使わ

	れ方が時代とともに変わってきたのだなと実感させられた。また，全国のコンベンション施設の大半は民間の運営専門企業が施設運営に参加しているようだが，こういった民間のコンベンション運営専門企業や日本コンベンション事業協会などのコンベンション関連協会となるべく早い段階でコンタクトをとり，運営に向けた体制作りをすることで，出費を抑えながら運営しやすい施設にすることができると思う。
中津委員	宇都宮はもう少し魅力が必要。名古屋では大きい会議はホテルで開催されることが多い。その理由としては，会議から宿泊まですべてをホテルで提供できるからである。宇都宮が埼玉や東京からの時間的距離が近いということは，宇都宮市内に宿泊施設が不足していれば，結局，埼玉や東京と同レベルのコンベンション施設では東京や埼玉に持っていかれるのではないだろうか。コンベンションに反対ではないが，30 年先や 50 年先など，大きな目で見て，宇都宮だけではなく大きなビジョンでトータル的なプランとして考えるべきであり，そのためには魅力的な都市環境の整備が必要。
古池会長	宇都宮では都市ブランドなどを展開しているが，宇都宮に滞在したくなるような，あるいは，色々な観光ができるようになるためにはホテルなどの機能が必要。昨年開催されたジャパンカップの際には，他のイベントとも重なっていたために宿泊施設が不足していたようだ。今議論しているのはコンベンション施設だが，コンベンション施設に付随する施設についても今後検討していく必要がある。
中津委員	公共施設だけで議論していると片手落ちになってしまう。他地区も含め，民間施設と同時並行で協議できると良いと思う。
議事（２）新たに検討する公共機能について	
石井委員	6 つの機能の分類については賛成である。各機能ともに大学の果たせる役割は多いのではないかと思う。最近は，全国的に学生による社会活動が盛んに行われており，6 つの機能それぞれに関連する活動が活発に行われており，社会の大きな財産になると考えている。また，栃木県の場合は県内が山などで遮られることがなく，非常に大学間の連携がしやすい地理であり，活発に大学間の連携がなされている。駅東口地区では，社会が大学を利用できるような機能があると良いのではないか。それぞれの機能を効率的に行うための総合窓口・場をつくり，大学と社会を結びつけるようなことができれば良いと思う。例えば，栃木県には県内の 19 の高等教育機関で構成されている「大学コンソーシアムとちぎ」があり，色々やろうとはしているが大学の力だけではなかなかうまく回っていかないことから，ぜひ，公共と連携しながらこの組織をうまく活用できれば，社会にとっても大学にとっても良いものになるのではないか。
須賀委員	医学薬学関係のコンベンションを目玉にしていることから，地区の一つのコンセプトとして，コンベンションを支えるあるいは補完する医療や福祉，健康や子育て支援などの機能を打ち出していくのが良いと思う。例えば，千葉県では，幕張メッセは成田空港に近いなどの立地から IT 産業をコンセプトにしているし，上総アカデミアホールではＤＮＡ研究所などの先端技術をコンセプトにしている。本地区においても医療福祉等をコンセプトに，健康や医学が充実した図書館であったり，健康づくりという面でフィットネスクラブであったり，クリニックモール，医療薬学系企業のオフィスや研究所が考えられないか。宇都宮駅から各医療系大学・高機能病院，リゾート他を

	繋ぐヘリポートなど，医療・健康・子育て・福祉などを切り口にした特色ある機能を，この地区だけで考えるのではなく，県内を見据えた機能を検証する必要がある。
安藤委員	車社会という現状がある中では，本当に駅が便利と言えるかは少し疑問がある。例えば，小さい子どもを連れたお母さんの場合は，駅に駐車場がない場合，ベビーカーを押しながらバスを使って来ることになるなど，車で行くよりも行きづらくなるのではないかと思う。施設をただつくるのではなく，そこに入れる機能とその機能を利用する対象者の来やすさをセットにして考えていかなくてはいけない。
古池会長	アクセスの問題をどうするかということは重要になる。自転車のまちや高齢者社会への対応などを含めて考えるべき。市外から来る方に使いやすい施設というだけではなく，市民の方にも利用しやすい施設というのも検討していく必要がある。なお，本日欠席されている林委員から，駅東口に新たに検討する公共機能について事前にご意見をいただいているので，事務局から報告願います。
事務局	林委員から預かったご意見についてご紹介いたします。駅東口地区の機能検討にあたっては，明確なコンセプトが必要であり，これから超高齢化社会を迎えるということで，「超高齢型」をコンセプトにして色々考えられるのではないか。例えば，須賀委員からもご意見をいただいておりますが，超高齢型へ対応する医療機能として，デイサービスなどの介護支援機能，もう一つが，現在，腰痛防止講座にかなりの需要があることやフィットネスクラブとか健康関連産業がかなり展開されていることなどから，益々そういったニーズが高まる可能性があるということで，超高齢型へ対応する健康機能などがあるのではないか。また，その他ということで，駅東口に限らず街中に巣鴨のように日常的に人が集まるということを目的に，イベントを定期的に開催することも重要ではないか。例えば，毎月，3 日と 8 日を「宮の日」としてイベント開催することで，平日や週末に関わらず人が集まる空間になると思う。また，現在抽出されている 6 つの機能については，一つだけの機能を取り出すのではなく，横断的に繋がってまとめるような仕組みも大切だと思う。
古池会長	宇都宮市の市政研究センターが主催で昨年 12 月に行われた「大学生によるまちづくり提案」において，１位になったのが放送大学の学生の皆様で，平均年齢が 60 歳超で，高齢者の問題や中心市街地の活性化の問題に対応した「暇つぶしビジネス」という内容の提案だった。今の高齢者というのはどんどん外に出て行くという傾向があることから，そういった方々の居場所をつくるというのもあるのかもしれない。
柿沼委員	駅東口地区の機能を考えるうえでは，それぞれの機能のバランスがとれていることが必要だと思う。城址公園は施設内に産業的な施設が無いために人が滞留しづらいなど，バランスがうまくとれていないためにあまり機能しておらず，リピーターも少ないのではないかと考えている。宇都宮には魅力が欠けており，何ごともバランスが悪いと上手くいかないことから，観光も子育て支援も環境も全ての機能がバランス良く配置されていることが大切だと思う。機能の検討にあたっては各機能の相乗効果が図れるように，バランスを考えながら進めていくことが必要だと思う。

今井委員	駅東口地区は雨に濡れないで駅から移動できる場所としては最高の場所だと思う。地元には 150～170 団体の市民サークルがあるが，活動場所を色々と探している状況。駅東口地区の施設は外からの人に大いに使っていただくとともに，市民へのサービスというのを忘れず，会議室などを市民も使えるような施設として欲しい。
古池会長	外から来るお客様だけではなく，地元，市民のための施設としてぜひ活用できるような施設であることが必要。
南木委員	駅東口地区は土地区画整理がされた後，大型店舗や学校などは増え，病院の数もかなり多いし，飲食店もかなり栄えていると感じているが，八百屋や豆腐屋などの個人店舗が少ない状況である。
荻委員	宇都宮は交通の便は良くなっていると思う。北関東の玄関口として何かしらのアドバンテージを持てる施設が必要ではないかと感じている。そのためには，これまでのコンベンション施設では何か足りないのではないかと感じている。また，平土間式のホールは音響面が弱く利用目的が狭まるのではないかと思う。運営面においては，民間と一体で進めていかなければ，これからのニーズには応えていけないと感じており，ソフト面への民間活力の必要性はよく理解できた。また，ゆうあい広場は利用者がかなり多くて入りきらない状態だと聞いている。中心市街地の活性化のためにも，駅前でのそういった機能の提供は良いのではないだろうか。機能の検討にあたっては，駐車場など交通の問題をセットで考えながら，必ずしも市の課題を解決するというだけでの機能ではなく，駅という立地を生かした機能を検討したほうが良いと思う。
古池会長	周辺都市との差別化とともに，交通の問題については引き続き検討が必要になる。
國谷委員	地域振興の立場からは，住民との連携が大事と考えている。学会は市民とは遠い世界のように感じるが，ボランティアで市民が活躍されるとあるが，市民の方はどのように関われるのか。
事務局	学会開催による効果として，①市民意識の醸成，人材の育成，ノウハウの蓄積や②産業・観光に関するＰＲ，交流の創出を挙げているが，学会が開催されると市民公開講座が開かれたり，市民向けの手術体験コーナーが設置されたり，国際会議の際にも市民の方が通訳や観光案内のボランティアとして参加する機会がある。また，お土産ブースや企業製品紹介ブース等も設置されることから，そういったところで市民の方たちと参加者の方たちとの多方面での関わりが生まれる。
國谷委員	高齢者の方だけでなく，元気な方においても地域づくりに参加できるような，ソフト的な仕組みがあれば宇都宮市の特色がでると思う。
その他	
事務局	今後の日程だが，本日いただいた意見を踏まえた検討を進めていく。次回は５月～７月の間での開催を予定している。 また，懇談会については，平成 23 年度内に駅東口地区整備の方向性として提言をいただきたいと考えている。
古池会長	以上で第４回宇都宮駅東口地区整備推進懇談会を終わりにする。